PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

08-235588

(43) Date of publication of application: 13.09.1996

(51)Int.CI.

G11B 7/00

G11B 9/00 G1 1B 9/10

(21)Application number: 08-052842

(71)Applicant: HITACHI LTD

(22)Date of filing:

11.03.1996

(72)Inventor: TERAO MOTOYASU

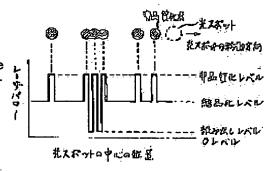
NISHIDA TETSUYA YASUOKA HIROSHI ANDO KEIKICHI OTA NORIO

(54) RECORDING METHOD OF INFORMATION

(57)Abstract:

PURPOSE: To record information by a single laser beam by biasing the beam power to an erasing level and increasing the recording level of the beam for a specific time when overwriting the information using a single energy beam.

CONSTITUTION: The power is raised to an amorphous level for a short time at the place where the recording medium is to be made amorphous in accordance with the information signal. When the information including a laser beam pulses of length more than twice a shortest pulse length is recorded, the laser beam is divided into original if recording waveforms and plural short pulses and are radiated as shown in the center section of the waveforms in a figure. When the laser beam is divided into plural short pulses as mentioned above, it is desirable to make the power lower than a crystallization power level between pulses. By dividing the laser beam into plural pulses to be radiated, a recording pattern is formed on a disk to provide regerative signals which are faithful to original signals.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

11.03.1996

[Date of sending the examiner's decision of

29.07.1997

rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

2941703

[Date of registration] 18.06.1999
[Number of appeal against examiner's decision of rejection]
[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]
[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11)特許番号

第2941703号

(45)発行日 平成11年(1999) 8月30日

(24) 登録日 平成11年(1999) 6月18日

(51) Int.Cl.	識別	記号	FΙ		
G11B	7/00		G11B	7/00	L
	7/125			7/125	С

発明の数6(全 5 頁)

	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	II .	
(21)出願番号	特質平8-52842	(73)特許権者	000005108
(62)分割の表示	特願昭62-99749の分割		株式会社日立製作所
(22)出顧日	昭和62年(1987) 4月24日		東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地
		(72)発明者	寺尾 元康
(65)公開番号	特閱平8-235588		東京都国分寺市東恋ケ窪1丁目280番地
(43)公開日	平成8年(1996) 9月13日	,	株式会社日立製作所中央研究所内
審査請求日	平成8年(1996)3月11日	(72)発明者	西田 哲也
審判番号	₩9-14287		東京都国分寺市東恋ケ窪1丁目280番地
審判請求日	平成9年(1997)8月27日		株式会社日立製作所中央研究所内
1100000日	1 220 1 (2001) 0 /3 = 1	(74)代理人	弁理士 小川 勝男
		合議体	
			片岡 栄一
		1 2	三友 英二
		1 7117	ーム・ハー 阿部・利英
		48716	
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 情報の記録方法及び情報記録装置

1

(57) 【特許請求の範囲】

1. エネルギービームが第1のパワーレベルで第1の状態に、上記第1のパワーレベルより低い第2のパワーレベルで第2の状態にすることが可能な記録媒体を用い、情報を上記第1の状態にある記録点の長さ及び間隔としてオーバーライトにより上記記録媒体に記録する情報の記録方法であって、上記記録媒体を上記エネルギービームと相対的に移動させ、最短の長さの記録点を記録するときには上記第1のパワーレベルに到達する1つのパルスで記録し、上記第1のパワーレベルに到達する第1、第2、第3の順の3つのパルスで上記記録媒体上の各パルスの記録部分が互いにくっつき合った長い記録部分を形成する際に上記第1と第2のパルスとの間に上記第2のパワーレベルより低いレベルに到達させ、かつ、上記第2と第3のパルスとの間に上記第2のパワーレベルよ

2

<u>り低いレベルに到達させる</u>ことを特徴とする情報の記録 方法。

2. エネルギービームが第1のパワーレベルで第1の状態に、上記第1のパワーレベルより低い第2のパワーレベルで第2の状態にすることが可能な記録媒体を用い、情報を上記第1の状態にある記録点の長さ及び間隔としてオーバーライトにより上記記録媒体に記録する情報の記録方法であって、上記記録媒体を上記エネルギービームと相対的に移動させ、最短の長さの記録点を記録するときには上記第1のパワーレベルに到達する1つのパルスで記録し、上記第1のパワーレベルに到達する第1、第2、第3の順の3つのパルスで上記記録媒体上の各パルスの記録部分が互いにくっつき合った長い記録部分を形成する際に上記第1と第2のパルスとの間に上記第2のパワーレベルより低いレベルに到達させ、かつ、上記

第2と第3のパルスとの間に上記第2のパワーレベルよ <u>り低いレベルに到達させる</u>操作を行い、上記最短の長さ の記録点を記録するときの上記第1のパワーレベルに到 **遠する1つのパルスの時間幅が、上記エネルギービーム** が当該記録点の一端から他端まで通過する時間よりも短 いことを特徴とする情報の記録方法。

3. エネルギービームが第1のパワーレベルで非晶質状 態に、上記第1のパワーレベルより低い第2のパワーレ ベルで結晶質状態にすることが可能な記録媒体を用い、 情報を上記非晶質状態にある記録点の長さ及び間隔とし 10 てオーバーライトにより上記記録媒体に記録する情報の 記録方法であって、上記記録媒体を上記エネルギービー ムと相対的に移動させ、最短の長さの記録点を記録する ときには上記第1のパワーレベルに到達する1つのパル スで記録し、上記第1のパワーレベルに到達する第1、 第2、第3の順の3つのパルスで上記記録媒体上の各パ ルスの記録部分が互いにくっつき合った長い記録部分を 形成する際に上記第1と第2のパルスとの間に上記第2 のパワーレベルより低いレベルに到達させ、かつ、上記 第2と第3のパルスとの間に上記第2のパワーレベルよ り低いレベルに到達させることを特徴とする情報の記録 方法。

4. 請求項1に記載の情報の記録方法であって、上記第 2のパワーレベルは上記第1のパワーレベルの30%以 上90%以下の範囲にあることを特徴とする情報の記録

5. 請求項2に記載の情報の記録方法であって、上記第 2のパワーレベルは上記第1のパワーレベルの30%以 上90%以下の範囲にあることを特徴とする情報の記録 方法。

6. 請求項3に記載の情報の記録方法であって、上記第 2のパワーレベルは上記第1のパワーレベルの30%以 上90%以下の範囲にあることを特徴とする情報の記録 方法。

7. エネルギービームが第1のパワーレベルで第1の状 態に、上記第1のパワーレベルより低い第2のパワーレ ベルで第2の状態にすることが可能な記録媒体を用い、 情報を上記第1の状態にある記録点の長さ及び間隔とし てオーバーライトにより上記記録媒体に記録する情報記 **録装置であって、上記エネルギービームを発生する手段 40** と、上記記録媒体を上記エネルギービームと相対的に移 動させる手段と、最短の長さの記録点を記録するときに は上記第1のパワーレベルに到達する1つのパルスで記 録し、上記第1のパワーレベルに到達する第1、第2、 第3の順の3つのパルスで上記記録媒体上の各パルスの 記録部分が互いにくっつき合った長<u>い記録部分を形成す</u> る際に上記第1と第2のパルスとの間に上記第2のパワ <u>ーレベルより低いレベルに到達させ、かつ、上記第2と</u> <u>第3のパルスとの間に上記第2のパワーレベルより低い</u> <u>レベルに到達させる</u>よう上記エネルギービームを制御す 50 上90%以下の範囲にあることを特徴とする情報**記録装**

る手段とを具備することを特徴とする情報記録装置。 8. エネルギービームが第1のパワーレベルで第1の状 態に、上記第1のパワーレベルより低い第2のパワーレ ベルで第2の状態にすることが可能な記録媒体を用い、 情報を上記第1の状態にある記録点の長さ及び間隔とし てオーバーライトにより上記記録媒体に記録する情報記 **録装置であって、上記エネルギービームを発生する手段** と、上記記録媒体を上記エネルギービームと相対的に移 動させる手段と、最短の長さの記録点を記録するときに は上記第1のパワーレベルに到達する1つのパルスで記 録し、上記第1のパワーレベルに到達する第1、第2、 第3の順の3つのパルスで上記記録媒体上の各パルスの 記録部分が互いにくっつき合った長い記録部分を形成す る際に上記第1と第2のパルスとの間に上記第2のパワ ーレベルより低いレベルに到達させ<u>、かつ、上記第2と</u> <u>第3のパルスとの間に上記第2のパワーレベルより低い</u> <u>レベルに到達させる</u>よう上記エネルギービームを制御す る手段とを具備し、上記最短の長さの記録点を記録する ときの上記第1のパワーレベルに到達する1つのパルス の時間幅が、上記エネルギービームが当該記録点の一端 から他端まで通過する時間よりも短いことを特徴とする 情報記録装置。

9. エネルギーピームが第1のパワーレベルで非晶質状 態に、上記第1のパワーレベルより低い第2のパワーレ ベルで結晶質状態にすることが可能な記録媒体を用い、 情報を上記非晶質状態にある記録点の長さ及び間隔とし てオーバーライトにより上記記録媒体に記録する情報記 録装置であって、上記エネルギービームを発生する手段 と、上記記録媒体を上記エネルギーピームと相対的に移 30 動させる手段と、最短の長さの記録点を記録するときに は上記第1のパワーレベルに到達する1つのパルスで記 録し、<u>上記第1のパワーレベルに到達する第1、第2、</u> <u>第3の順の3つのパルスで上記記録媒体上の各パルスの</u> 記録部分が互いにくっつき合った長い記録部分を形成す る際に上記第1と第2のパルスとの間に上記第2のパワ <u>ーレベルより低いレベルに到達させ、かつ、上記第2と</u> 第3のパルスとの間に上記第2のパワーレベルより低い <u>レベルに到達させる</u>よう上記エネルギービームを制御す る手段とを具備することを特徴とする情報記録装置。

10. 請求項7に記載の情報記録装置であって、上記第 2のパワーレベルは上記第1のパワーレベルの30%以 上90%以下の範囲にあることを特徴とする情報記録装 置。

11. 請求項8に記載の情報記録装置であって、上記第 2のパワーレベルは上記第1のパワーレベルの30%以 上90%以下の範囲にあることを特徴とする情報記録装

12. 請求項9に記載の情報記録装置であって、上記第 2のパワーレベルは上記第1のパワーレベルの30%以 5 .

置。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明は、光、原子線などの エネルギービーム照射によって情報の費き換えが可能な 情報の記録用部材を用いた情報の記録方法に係り、特に 単一のレーザピームにより記録・消去を行う、啓き換え 可能な相変化型光ディスクに有効な情報の記録方法及び 装置に関するものである。

[0002]

【従来の技術】従来の相変化型光ディスク記録媒体にお ける記録・消去方法は、例えば特開昭59-71140号公報 に示されている。この方法では、記録膜を結晶化させて 既に記録されていた情報を消去する場合には、トラック 方向に長い長円形光スポットを用いて比較的長時間結晶 化可能な温度を保つことによって行う。その後新しい情 報を記録するには、十分集光した円形光スポットのパワ ーを、情報信号によって変調することによって行ってい た。しかし、最近になって、本発明の発明者らは記録膜 に用いる材料を改良することにより、十分集光した円形 20 光スポットがディスク上の1点の上を通過する間に結晶 化することを可能にした。このため、円形光スポットに より、ディスクの1回転でまず消去し、次の1回転でレ ーザパワーを変調して照射することによって記録するこ とが可能となった。さらに、レーザパワーを結晶化パワ ーレベルと非晶質化パワーレベルとの間で情報信号に従 って変調することにより、ディスクの1回転で情報の書 き換えを行うことも可能となった。

[0003]

【発明が解決しようとする課題】しかし、上記従来技術 30 では、情報の転送速度を大きくするためにディスクの回 転速度を上げると、記録膜の原子配列変化(たとえば結 晶化)の速度をさらに上げる必要が有り、エネルギービ ーム (たとえばレーザビーム) 照射によって結晶を融解 しても、照射後の冷却中に原子配列が元にもどってしま い(たとえば再結晶化)、逆方向の原子配列変化(たと えば非晶質化)を行うことができない。

【0004】従って本発明の目的は、上記従来技術の問 題点を解決し、相変化速度の大きな記録膜を用いても、 び装置を提供することにある。

[0005]

【課題を解決するための手段】上記の目的は、エネルギ ーピームスポットの中心が記録点の端から端まで通過す る時間より短いパルス幅の単一または複数のパルスで記 録点を形成することによって達成される。上記端から端 まで通過する時間の3/4より狭いパルス幅のパルスと すればより好ましく、1/2より狭いパルス幅のパルス 幅のパルスとすればさらに好ましく、1/4より狭いパ ルス福のパルスとすれば特に好ましい。

6

[0006]

【発明の実施の形態】上記のようにパルス幅を狭くする ことによって照射部分からその周囲への熱伝導による熱 拡散を防ぎ、照射ビームエネルギーを相対的に小さくす ることができる。従って照射後の冷却速度を大きくする ことができる。

【0007】本発明は単一のレーザビームで情報のオー バーライト(あらかじめ消去せずに重ね暮きによって掛 き換えを行うこと)を行う場合に、レーザ光照射後の冷 10 却速度が低くなりやすいという問題点を解決するので、 特に有効である。

【0008】本発明を適用する記録媒体は、結晶-非晶 質間の相変化を起こすものの他、他の原子配列変化を起 こすものでもよい。たとえば一方の原子配列変化が急冷 を要する結晶-結晶間の原子配列変化、あるいは非晶質 - 非晶質間の原子配列変化にも有効である。

【0009】本発明はエネルギービームの種類によらず 有効であり、光、電子線、イオンビームなどが使用でき る。ただし電子線およびイオンビームの場合は、記録媒 体の記録膜の上に着ける保護膜は膜厚1μm以下が好ま しく1000人以下がより好ましい。

【0010】以下、本発明を実施例によって説明する。 【0011】結晶状態と非晶質に近い状態との間で可逆 的に相変化によって記録・消去を行う、InとSeを主 成分とする記録膜の両側を、SiO2の保護膜で挟んだ 構造のものを、表面に紫外線硬化樹脂層を持ったディス ク状ガラス基板上に形成した。紫外線硬化樹脂層の表面 にはトラッキング用の溝およびアドレスを表すビットが 転写されている。次に上記の保護膜上に紫外線硬化樹脂 を塗り、もう一枚のガラス基板と貼り合わせて紫外線に よって硬化させた。

【0012】次にこの光ディスクを回転速度600rpm で回転させ、トラッキングおよび自動焦点合わせを行い ながら記録すべき場所を捜した。記録すべき場所では、 レーザ光のパワーを読み出しパワーレベルから結晶化パ ワーレベルに上げた後、図1のようにパワーを変動させ た。図1の上部には記録トラック上に形成される非晶質 化点の配列を示した。トラック上のその他の部分は結晶 化しており、トラック間はas-depo状態(蒸着したまま 確実に可逆的な相変化を起こさせることができる方法及 40 の状態)である。実際には光スポットの位置は動かず、 ディスク上の点が左に動くが、図ではディスク上の点が 静止して光スポットが右に動くように表わしてある。図 1の下部の図では、横軸が上部の図における光スポット 中心の横方向の位置に対応しており、光スポットが右に 移動して行く時に各点に照射されるレーザパワーを示し ている。情報信号に応じて非晶質化すべき場所では、パ ワーを短時間だけ非晶質化レベルに上げている。レーザ パワーが非晶質化レベルに上がる時間幅は、光スポット の中心が対応する非晶質化点(周囲より結晶性が悪い範 50 囲)の端から端まで通過する時間の約3/4になってい

る。だたし、パワーの上がる時間幅の定義は、結晶化レ ベルからのパルスの髙さの半値の点の幅とした。非晶質 化パワーレベルのレーザ光照射によって、ディスク上の 照射された部分は融解し、急冷されて非晶質になる。最 短のパルスの長さの2倍以上の長さのパルスを含む情報 を記録する場合は、図1の波形の中央部に示したよう に、本来の記録波形を複数の短いパルスに分割して照射 する。図1の例では照射部分は3つの非晶質化部分が互 いにくっつき合った長い非晶質化部分を形成する。この ように短いパルスに分割した場合、パルスとパルスの間 10 却速度は大きい。従って効果は単一ピームオーバーライ ではパワーを結晶化パワーレベルより低くした方が好ま しく、パワー0、あるいは読み出しパワーレベルとする のが良い。しかし記録膜組成や保護膜の材質によって は、結晶化パワーレベルあるいはそれより少し上まで下 げるだけでもよい。パルスとパルスの間の間隔が狭いほ ど、その部分のパワーの下げ方を大きくするのが特に好 ましい。図1では読み出しパワーレベルまで下げた場合 を示している。記録すべき情報がどんなに長いパルス幅 の部分を持っていても、このように複数のパルスに分割 して照射することにより、原信号に忠実な再生信号を与 20 えるディスク上の記録パターンを形成することができ る。記録すべき情報が短いパルス幅の部分しか持ってい ない場合は、もちろん上記のような複数パルスへの分割 は必要無い。本実施例のレーザパワー波形は、あらかじ め消去する必要の無い重ね書きによる情報書き換え、す なわちオーバーライトが可能な波形である。

【0013】レーザパワーが非晶質化レベルに上がる時 間幅を、光スポットの中心が対応する非晶質化点の端か R

ら端まで通過する時間の1/2以下とすればより好まし く、1/4以下にすれば非晶質化が完全に行えて特に好 ましい。

【0014】連続レーザ光照射で一たんトラック全体を 結晶化させて消去した後、読み出しパワーレベルと非晶 質化パワーレベルとの間でパワー変調されたレーザ光で 記録する場合も、同様にパルス幅を狭くするのが好まし い。しかし、この場合はパルスとパルスの間では常に読 み出しパワーレベルまでパワーを下げるのでもともと冷 トの場合ほど顕著ではない。

【0015】単一ピームオーバーライトの場合、非晶質 化パワーレベルに対して結晶化パワーレベルを30~9 5%の範囲で調節すれば、非晶質化パワーレベルに有る 時間幅の広狭にかかわらず一応再生信号が得られる。5 5~90%の範囲がより好ましい範囲である。

【0016】本実施例では、非晶質化の記録と考えた が、結晶化の方を記録と考えるように見方を変えてもよ い。

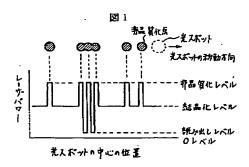
[0017]

【発明の効果】本発明によれば、高速原子配列変化が可 能な記録膜を用いても逆方向の原子配列変化が可能であ るから、情報の転送速度を大きくすることができ、しか も単一のレーザビームによるオーバーライトも可能であ るから、大量の情報の記録および読み出しに極めて有利

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明は一実施例の動作原理を示す図である。

【図1】



フロントページの続き

(72) 発明者 安岡·宏

> 東京都国分寺市東恋ケ窪1丁目280番地 株式会社日立製作所中央研究所内

(72) 発明者 安藤 辛吉

> 東京都国分寺市東恋ケ窪1丁目280番地 株式会社日立製作所中央研究所内

(72) 発明者 太田 嶽雄

> 東京都国分寺市東恋ケ窪1丁目280番地 株式会社日立製作所中央研究所内

9

(56) 参考文献 特開 昭59-22239 (JP, A)

特開 昭56-148740 (JP, A)

特開 昭63-266633 (JP, A)